

1月15日1979・No.13

# 京橋の印刷

発行所  
 東京都印刷工業組合  
 京橋支部  
 〒104 東京都中央区新富 1-16-8  
 日本印刷会館3F 電話 552-1855  
 印刷所 八千代印刷株式会社



湊町は隣接する入船町と共に都内でも有数な印刷関連の業者が多い地区である。古来から水運の便が人間生活の中心におかれ、江戸は隅田川の水路を利用して発達した。湊町は明治の中期まではその河口にあたり文字通り水路輸送の要衝として賑ったところであった。自然に湊町の鉄砲洲稲荷神社が船乗りの信仰を集めて「みなといなり」ともいわれたが、神社は、平安時代初期の承和八年、今の馬場先のあたりに当時の住民が、天地の恵みに感

謝して祀られたのがはじまりで、一、一三〇有余年の歴史をもっている。祭典に奉納される神楽舞がすぐれているといわれる。(その後の経緯は本文12頁・銃洲雑話に参照)。今もこの辺に残る古称の鉄砲洲は、寛永の頃、オランダより献上された大砲を中心に、島原の乱の鎮圧のため演習がおこなわれたところからと伝えられ、いまの明石町から勝どき橋に及ぶ南北に細長い土地であったと言われている。

## 謹賀新年 祝・創刊一周年

京橋支部顧問・相談役・参与の会

- |     |         |        |
|-----|---------|--------|
| 顧問  | 高橋 与作   | 正進社印刷  |
| 顧問  | 伊坂 一夫   | 伊坂美術印刷 |
| 顧問  | 荻野 義博   | 荻野印刷   |
| 顧問  | 先川 道三   | 先川印刷   |
| 顧問  | 花崎 実    | 大東印刷工芸 |
| 顧問  | 市川 仁作   | 三和印刷社  |
| 顧問  | 中村 謹吾   | 日本精版印刷 |
| 顧問  | 白橋 龍夫   | 白橋印刷所  |
| 顧問  | 斎藤 喜徳   | 斎藤正文堂  |
| 相談役 | 片岡 義郎   | 共立印刷   |
| 相談役 | 石沢 幸    | 石沢印刷   |
| 相談役 | 瀬戸 昇之助  | 昇寿堂    |
| 相談役 | 荒川 隆晴   | 三荒印刷興業 |
| 相談役 | 池宮 義久   | 三進印刷   |
| 参与  | 久保田 幸一郎 | 東京真宏印刷 |
| 参与  | 大竹 次郎   | 大竹印刷   |
| 参与  | 榎本 栄七郎  | 榎本印刷   |
| 参与  | 荒井 政吉   | 荒井美術   |
| 参与  | 加瀬 文吉   | 文寿堂印刷  |
| 参与  | 森元 雄    | モリイチ   |
| 参与  | 松岡 繁夫   | 文海堂    |
| 参与  | 柴沼 四郎   | 熊谷印刷   |
| 参与  | 児玉 正己   | 信濃印刷   |
| 参与  | 大橋 忠治   | 東銀座印刷  |
| 参与  | 土井 嘉光   | 出座印刷   |
| 参与  | 小薬 忠昭   | 土井印刷   |
| 参与  |         | 小薬印刷所  |

支部組合員の皆さま、ご健勝・ご繁栄の中で昭和五四年の新春を迎えられ、執行部一同心よりご祝詞を申し上げます。

昨年四月、前任者より引き継いで以降早いもので九ヶ月を経過致しました。この間何一つ業績らしい足跡もなく、寔に汗顔の至りであります。然し乍ら支部定例行事等につきましては、盛会且つ円満に実施できました事は、皆さま方の変らぬ友情とご支援によるものと、一同感銘を深めております。また毎月開催しております定例の部長・地区長会の会議には、毎回全員が出席される協調と連帯関係にあることを、ご報告出来ることを、無上の誇りとするものであります。

次に前執行部のご努力により発行された「京橋の印刷」も、月刊誌として定着し、京橋支部情報機関の役目を果たと共に、組合員皆さまの交流の場を提供し得ますことは、連帯と協調を伝統とする京橋支部の誇りであります。この底流にあるものは、この紙面に特にご関心が高く、且つご投稿を頂いている皆さま方、そして手前味噌で恐縮ですが、編集委員会の活動には頭が下がるばかりで敢てこの事をご披露させて頂き、皆さまのご理解を願う次第でございます。

またこの継続には、昨年配布するものが出来ましたが、「支部組合員名簿」

「京橋の印刷」「組合通達文書綴」ファイルなど関連業界の有志のご厚志並びにご協賛広告によるもので、この機会に改めて感謝の意を表する次第であります。

さて今年は己未の年で、明治より一二年、大正より六八年になります。光陰矢の如しの言葉が実感を伴って感じられて参りますが、また年輪の重さ、一年の尊さを飄って感じとれますのも、新年を迎えた節目であればこそと、思います。今年こそ一日一日を大切に、悔いを千載に残さぬよう、皆さま方と精進させて頂けたらと、考えております。

さて日本経済の動向は、低成長時代に入って五年を経過しましたが、景気は浮揚し得ないまま、雇用不安という大きな社会問題を残して越年し、今年は景気回復と雇用問題が、当面する大きな政治課題になるものと予測されます。

また円高・ドル安に伴う通貨レートの混乱が、日本経済の景気の動向に、大きな影響を与えたことは、一庶民として、また印刷業界にとっても、看過し得ない問題ではなかったかと存じます。輸出を国是とする日本経済にとって、国際経済乃至国際交流の場の中で、輸出悪の与論が充満したことは、たとえ過渡的現象とは申せ、中小企業業界にと



って甚だ遺憾な出来事でありました。また反面私共業界で日常使用している諸資材については、価格値上げの際には、海外市況の品薄または高騰が利用され、逆に円高メリットの還元が、一向に反映されないことは、極めて不明朗な現象であります。

年始と共に国家予算編成の時期に入り赤字国債の発行限度額(率)と、財政収支の問題が高まっております。この様な逼迫した財政事情をふまえ、中小企業対策の柱の一であります特別措置法の、全面的見直し、そして打ち切りが取り沙汰されております。特に当業界にとって、随一の恩恵的政策であります中小企業のための、合理化機械の割増償却および投資減税の継続は、是非共存続させてほしいものであります。

また一方で枯渇した収入財源として、五五年一月実施を目標に、一般消費税創設が暮れの税調でも実施の方向が打ち出され、今後本格的な議論に入るものと予想されます。

以上につきましては、当業界に与える影響の大きいことを配慮され、組合本部執行部および事務局におかれては組合員全般の意向を充分くみとり、各事業所の発展・充実に結果が出るよう、今後共ご努力とご研究を熱望してやみま

### 支 部 長 小 宮 山 敬 之

せん。さて当執行部も来年春の交替期をメドにして、今年は仕上げの時期との認識と覚悟を更め、今後に対処していきたいと思っております。

そこで当面する問題をどれ一つをとりあげても支部組合員皆さまの、ご理解ご協力がなくてはなし得ません。どうかご支援の程宜しくお願い申し上げます。

#### 1 組合員増強運動

当印刷業界は、その組織する組合事業の大きさや活発さは東京都において最上位にあり、またその出荷額など、日本経済の中核的存在であります。然し乍ら日本経済にそれ程貢献しているものの、印刷業界の社会的地位乃至評価は、それに相応しいとお認識の方々、果して何人いらしやるでしょうか。とするならば、その根に業界組織率の問題があると思えます。現在の四七％という状況では、印刷業法の制定はもとより、国の助成措置一つをとっても、業界自体が満足できるようなものは望めません。即ち国の政策を決定づけ、動かすことの出来るような、業界資料が不足であり、また国が業者全体の声として、資料として把握し得ないところに、阻害要素の大部分があります。国が業者組合の要望を受けとめる場合、その業者の全般的要望として受けとめ得る組合加入率が前提となる

ことは当然であります。その点で現々の過半数を割る四七〇では、それが全員結束した要望であり、資料であつてもその業界全般の姿とは、見ない方が当然かもしれません。組織率がどこ迄いけばその認識に達するか、一般的に見て三分の二即ち七〇〇前後が一つのメドではないでしょうか。本部の本年度加入促進目標二〇〇は、それに近づき第一ラウンドでありましょう。組合加入の勧誘には色々とお骨折りが、ご苦労が多いことと思いますが、まずお近くの未加入のお知りあいよりお呼びかけをお願い致します。

遅くなりましたが、未加入者のリストも整備できましたので近々加入申込書類とお届け致します。

## 2 全国共済加入のおお願い

このことは、当支部選出の久保田厚生委員長殿(前支部長)より機会ある毎に要請を受けている本部施策の重要事項の一つであります。当支部では約半数の事業所が未加入で、特に比較的規模の大きな事業所にその傾向に見受けられることは残念なことです。この制度は、組合員相互の連帯、協調意識の高揚は勿論、その手数料および還付金については、本部および支部の事業活動の大きな財源となっております。即ち賦課金(組合費)の補完的役割りを果たしており、負担の公平より考えても、全事業所が加入願いたい性格のもの

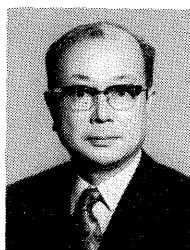
です。お得意先や地域団体等に加入済が、未加入の方々の理由のようですが前記趣旨をご賢察賜わり、たとひ事業主お一人でも加入して頂きますようお願い致します。地区長さんに差しあげてありますので、地区例会などの機会にお呼びかけ頂き、全員加入が達成できますよう。重ねてお願ひ申し上げます。

## 3 事業者台帳の回収について

地区長・幹事の皆さんのお骨折りにもかわからず、現在約四〇社の方々が未提出となっております。この種重要資料の回収は、組合事業の基礎資料として、変化する業界の未来展望に資するものであり、また業界盛運の積み重ね資料ともなるものです。個別の社の業態は公表することは勿論、秘密も厳として守られております。全体の中の一員の、意義あるお立場をご認識の上、ご提出下さいませよう重ねてお願い致します。

## 4 地区例会へのご参加について

当支部が伝統の上にあるとはいえ、それに恥じない円満且つ積極的運営がなされているのは、各地区地区長さん幹事さんの果す献身的なご努力によります。特に毎月またはそれに準ずる地区例会の活動は、同一地区の村意識の親近感がその



根本にあり、支部運営を支える重要機関であると感銘しております。全体的な、支部会合には足が遠のくが、地区の集まりには、何をおいても参加するといふ、そのお気持は貴いものと思ひます。然しそのお気持も何時迄もでは困ります。やがては支部に、そして本部事業に参画される過渡的なお気持として理解させてほしいものです。ご案内の通り組合事業は、それを構成する組合員お一人おひとりの参画意識の中にこそ成り立つものだ、考えられます。

また執行部としては、何事によらずご関心を持って頂くことは有難いことで、地区例会におけるご発言等は、地区長または「京橋の印刷」誌上に反映して頂ければ、それが執行部一同の充足感となります。逆の無関心は折角ご指名を頂き、執行部に参画した使命感に風穴ができて、ある場合は虚無感すら味うことがあります。執行部はその発足にあたり地区の連帯協調を念願とし、地区例会には出来る限りお伺いすることはお約束致しました。然し残念ながらその責を果しきれておりません。今年反省をこめて出席させて頂きます。心からなるご叱正をお願い致します。

## 5 後継者の育成

そこで最後にお願ひしたいことは、組

合員ご自身は勿論のことですが、次代を荷負う二世または後継者の方々を、積極的に組合事業に参画させて頂きたいことです。多忙な日常業務の中でご無理なお願いかと存じますが、このことはご自身の事業繁栄の源泉であることのご認識を頂き、宜しくご賢察の程お願い致します。特に支部役員を通じて本部各種委員会への参画こそ、組合事業発展のためのエッセンスであり、またご自身の事業発展に役立つことを信じて疑いません。

以上新年に当りいろいろと不躰なお願いやら所感の一端を申し述べました失礼の段は、平にご寛容の程お願い致します。

なお一月廿七・八日の新年臨時総会は支部の重要行事の一つであり、新年は何かとご多端のことと存じますが、地区の皆さま共々ご参加下さいませ。当日は支部組合員相互の親睦を深め、連帯意識の高揚をはかることは勿論ですが、お世話を頂きました前執行部および役員一同の皆さま方に、その業績を讃えと共に、深甚なる感謝を捧げる行事がございます。ご出席賜わり、直接ご慰労のお言葉を頂ければ、有難い次第であります。

最後に、支部組合員皆さまのご事業の益々のご発展並びに、ご健勝を祈念し新年のご挨拶と致します。

# 対談 望をきり拓く

## 抱負を語る



白橋印刷(株)社長

白橋 達夫



(株)小葉印刷社長

小葉 忠昭

編集部 本日は、今年の干支の羊歳のお三方にお集まりを願ひまして小宮山支部長を囲んでこの一年の抱負と、さらに「八〇年代へむけての展望」をどのようにもつか、また、石油ショック以来の低成長経済下で、印刷界の組合運営や事業経営はどうあるべきか、長期不況という厳しい環境にあります、新年でもありますので「夢と期待」も折り込みながら

### 不確定性時代に

#### どうする中小印刷

お気軽に話し合いをお願いします。  
鎮目 私は大正八年生れの羊歳で月島地区でオフセットを専業の美山堂の鎮目です。以前は湊町におりました、平版会では小宮山支部長に親しくお世話を頂いております。

昨年末に国政が福田さんから大平さんにバトンが渡されましたが、一般消費税とか富裕税等の、税負担が相当に加重になると予想されますが、それには、企業の売上げの増加と利益の向上により対税関係や賃金の上昇なども吸収しなければなりません。各社それぞれに生産性、付加価値、賃金などに格差がありますが、私どもでは、その対策とする合理化は限界に近く、従業員も永年勤続の者が大部分ですので技術面については心配は少ないのですが、年々の平均年令の上昇と高賃金が悩みの種です。今年には営業に若い人を増員して大いに充実に計りたいと考えています。

印刷工業組合では料金の適正化が叫ばれて過当競争を避けるよう指導がされていますが、何んとしても競争が非常に激しいですね。組合でいわれている適正料金で原価計算をし見積りますと通らないことが多いですね。永年の間組合役員の方々にお骨折りを願っていますが、この辺でアウトサイダーの対策をきちんとして頂くことで料金適正化が前進し、印刷業界に大きなプラスとなると考えます。

編集部 小葉さん、白橋さんの順でお話してください。  
小葉 私は入船で買物印刷をやっております小葉印刷です。私は自分の生いたちの経過と地域活動の経験から感想を述べてみたいと思います。

私は一九三一年・昭和六年生れの羊歳



祝・創刊一周年

東京都印刷工業組合・京橋支部

- 支部長 小宮山 敬之 小宮山印刷(株)
  - 副支部長 石菅根 啓悦 八千代印刷(株)
  - 〃 小山 英美 高千穂印刷(株)
  - 〃 篠倉 鐵郎 第一印刷所
  - 〃 山田 明光 日英舎印刷(株)
  - 〃 長島 伸行 長島印刷所
  - 〃 大谷 家清 一九堂印刷所
  - 〃 若林 亮 永井印刷工業(株)
  - 監査 小倉 武治 相相互美(株)
  - 〃 浅野 秀夫 法文社
- 地区長
- 京橋坂田 利正 秀英堂紙工(株)
  - 銀座 森山 哲雄 誠一印刷所
  - 新富 神林 克明 神林印刷(株)
  - 築地 神田 半三 永和堂(株)
  - 入船 小葉 忠昭 小葉印刷所
  - 湊 田島 弘聖 文社印刷(株)
  - 八丁堀 三田村 桂太郎 三田村印刷所
  - 新川 田島 一弥 久栄社印刷所
  - 月島 安西 定治 安西一誠印刷堂
- 地区幹事
- 京橋尾島 賢一郎 三徳印刷(株)
  - 〃 安田 博威 丸栄(株)
  - 〃 座瀬 戸 恭平 昇寿堂
  - 〃 小西 正雄 小西商店
  - 〃 柴田 淳一 印刷所
  - 〃 富一 乘道 雄尚 文堂印刷(株)

# 新春 79年に向けて

## 己未・年男が

です。日本の政治、経済の流れでは昭和一二年に小学生になる頃に支那事変が始まり、小学四年生で第二次大戦に突入り、やっと物心づく頃から戦争戦争で追い廻され、中学二年で昭和二〇年の終戦を迎えることができましたが、戦後の学制改革という転換を迫られ、政治的にも経済的にも混乱した時代に大学に入り、卒業は昭和二八年です。その頃から



美山堂社長

支部長・小宮山印刷社長

鎮目大三

小宮山敬之

やっと日本は戦後の落ち付きをとり戻したのですが、朝鮮戦争などを経て日本経済も今日の発展の基礎ができたと思えます。私は大学を卒業してから四年程してから昭和三二年印刷業に入ったのです。その当時の印刷界は労働攻勢を大きく受けていましたが、昭和三八年頃までは経済も登り坂で多少景気も良かったので、第一次近代化のはじまりで苦勞も多かつ

たのですが、私も二六才で労組と対決をするような経験をしています。

私たちの世代は起伏の激しい、転換や混乱の時期や、変革の時代を経てきているので、高度成長から石油ショック以後の長期不況にも、困惑するとか消極的になることはありません。印刷界も高度成長期には構造改善をおこない、低成長経済下では安定成長計画で、これからの印刷界はどうあるべきかを打ち出していますが、昨年一月二十八日におこなわれた組合本部主催の「経営者・幹部社員のための講演会」で印刷技術協会会長の塚田さんの講演のなかで、もう六、七年も前からのホットからコールドをすすめても今でも活字にしがみついているのはという話が出ましたが、私は印刷界の指導層の考え方が性急すぎるように感じますね。現在はホットメタルでは恰も商売が成り立たなくなるかの如く言われますが、私は決してそうは考えていません、まだまだ活字の良さを重要視している階層が沢山いますから、活字の良さを十分に活かせるフィールドはまだあると私は考えています。ただし旧態依然として処理していくと行詰まるので、今後何ういう形で展開して行くか、そこに新しい知恵をもって再活用する場面が必ず出てくると思いを新たにしているのが実感です。印刷界は七九年を足がかりに八〇年代は大きな変化をすするとらえて、活版業界はまだ相当な需要がある

入	桑	地	地	加藤	秀	東京	拓
小森	常雄	小森	信	印刷	社		
竹山	宗次	竹山	印刷	社			
加瀬	英雄	文寿堂	印刷	社			
宇留野	修一	文集社	印刷	社			
羽生	栄	翁羽生	印刷	社			
斎藤	隆夫	翁斎藤	正文堂				
長島	一磨	大	秀	社			
大橋	繁行	大橋	印刷	社			
浅野	知一	協和美術	印刷	社			
中山	英男	中山	印刷	社			
松本	尚武	翁松本	印刷	社			
宮川	良一	翁宮川	印刷	社			
八丁堀	河野	秀衛	印刷	社			
村上	繁夫	明文社	印刷	社			
榎本	則義	榎本	印刷	社			
山口	由紀	山口	印刷	社			
川	相原	多生	印刷	社			
宇野	賢一	宇野	印刷	社			
飯塚	松箔	松	印刷	社			
土屋	四郎	三惠工芸	印刷	社			
谷島	正次郎	翁	印刷	社			
会津	勇	会津	印刷	社			
小池	馨	安信	印刷	社			
室田	利一	室田	印刷	社			
本橋	亨介	本橋	印刷	社			
岩本	久人	支部	専従	書記			

謹賀新年 祝・創刊一周年

し、また掘り起す要素が多分にあると確信しています。従いまして今年の羊年が私の年であり、年令的にもこれからが勝負だと考えていますし、明るい見透しです。

**白 橋** 私も小葉さんと同じ昭和六年の羊年です。八丁堀で頁物とフォーム印刷をやっております白橋です。

今年の抱負ということですが、日本の経済が高成長から低成長へ時代が移り不景気で伸び悩んでいるときこそ反省が必要だと思えます。日本全体が高成長のときは、個々の企業の体系、売上なども増えるのですが、そのなかで自らの実力で伸ばした部分などの程度なのか、本当に把握されていないように思います。全て自分の力で伸ばしたと錯覚、過大評価しているようです。その点を見直す時機だと思えます。情報化時代と言われる昨今では毎日の新聞にパーセントとか目標値のような数字が出ていない日がない位です。組合でも加工高目標値がとり上げられていまして、これは望ましいことですが、やはり各々の企業は分析検討の場があつて、それが飛躍の踏台になると思うのです。企業は生きもので呼吸しているのですから、基本的なものを握んでいきたいですね。

私たちの世代は生れてから今日まで戦争或いは戦後の混乱で学生時代にはろくに勉強をしなかったのですが、しかし勉強は学校を出てからの方が一層必要で



あり社会へ出てからの方が本当の生きた勉強ができると思えます。人間として、企業の一員としてどうあるべきかが常に大切だと考えます。今年は私の反省の年になりたいと思っています。

**編集部** 鎮目さんからは料金適正化とアウトサイダーの組織化の具体的な問題提起があり、小葉さんは今年は総て積極的に活動する年とされ、白橋さんの反省の年にしたいとご意見がありました。そこで不況のときこそ積極的に設備投資をすべきだとする説があり、また不景気には、減量経営をと大企業がおこなっていますが、少し具体的な話を折り込んで進めて頂きたいのです、お願いします。

**情報の選択を誤ると  
設備過剰の原因**

**白 橋** 設備投資は好不況に関連はな

く与えられた全ての条件を分析し、結論を出して決断実行するのであって、机上のプランであつてはならないと思えます。私はやはり時が大切で、タイム・イズ・マネーではないですがタイミングが大事です、遅れると会社全体の土気活動にひびきますからね。見透しが立てば不景気でも忍耐強くやつた方が時間が稼げますから、私のところは取り組んでいます。

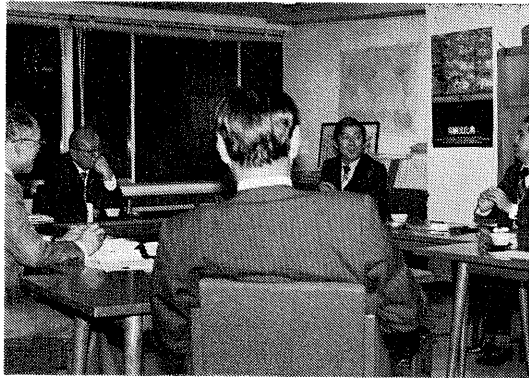
**小 葉** 印刷界の装備の様子は現在オフセットでは単色機、二色機では採算割れで、最低四色機でなくてはといわれていますが、もうその上にオフ輪が相当な勢いで出てきています。日進月歩で次々と新しいものが出てきていますね。そこで印刷界は過剰設備で遊休率が高まり行き詰ってきているのではないのでしょうか、ですから設備は慎重に、自分の会社の仕事の内容性質、得意先のニーズに定める設備をしなければと思えますね。情報過多のなかでその選択を誤つて、私の友人で自社の仕事に合わない設備をして行詰つた会社があります。低金利時代なので感情的には設備をしたい気持ちになりますが、全社的に従業員一人ひとりにまで徹底して対応できるよう充分研究すること、次々と新しいものが開発されるので、何時でも変化できる体質作りも必要ではないかと考えます。そのうえで積極的な経営と新たなものの導入をしていくことですね。

**生産性の「拡大」に  
「コニースーパーテン」がお応えします。**

毎時1万枚の超高速菊全判オフセット印刷機 2・4・5色機

**小森印刷機械株式会社**

本社 東京都墨田区吾妻橋3丁目11番1号 〒130 東京 (624)7161番(大代表)



### 世代の交代は企業の前進 設備の更新と生産管理

編集部 業界やマスコミから入ってくる情報は、一般論であるので、それは各々が参考にしながら対応していくというご意見ですが、設備更新と設備の遊休については印刷業界ではどのように対処したらよいのでしょうか、性能の良い高性能の機械が開発されてどんどん出てくると設備過剰の原因になりはしないか、そこで料金問題が派生してきていると思われませんが、如何でしょうか。

鎮目 それは種々なケースがあると思います。私のところに以前単色の菊全機があったのですが、どうも扱いても悪い

し機付も二名でして、しかも全判ですとロスも多く、予備紙も余計に入れないければならないので、菊半截の多色機にしたところ、コンパクトになったので紙も半截で扱いが楽になり、経費の面でも機付担当も一人になり、しかもプランケットやシンク、直焼の面付代、予備紙にしても全判で一、〇〇〇枚付けたものが半分に近い六五〇枚で良いのです。しかし菊全判で二円で通していたものを、半截多色機では刷り時間も早いものですから、見積りで落ちないような場合などは、どうしても一円のところを九五銭でということになってしまおうのです。私のところは印刷適正料金を遵守して原価計算も殆んどそれに近いところで出しているのですが、年々給料も上げ、賞与も出していくので、その面では設備の更新と共に、生産管理面でカバーしています、それは教育だと思えます。私のところは印刷機が四台ありますが、生産高を全員の連帯責任というようにしています。一号機担当のものが二号機の前を通るときは二号機の刷本を見て通れ、一号機に失敗があった場合は二号機の担当者の協力度が足りない、或いは二号機にミスがあったときは三号機の者の協力が不足だった、といった連帯責任としてミスを未然に防ぎ品質の向上と能率を揚げ皆の収入が増えるように、利益率を高めています、なかなか付加価値とか加工高は標準通り

にいかないですね。営業面では得意先の担当者との日常のコミュニケーションが大切ですね。特に過当競争の激しい業界ですから、ちょっと油断していると、下値でもっていかれますからね。私のところでは余り値段で競争はしないようにしています。結局はサービス面や納期の厳守、技術力でカバーをして、「多少は高くとも信頼できるお前のところで」と、今日まで過してきましたが、実際のところ或る期間、単価の固定があり苦しいですね。

編集部 そのことは先日塚田さんも講演でふれておられますね。

鎮目 そうですね、小企業を対象に考えて頂くことが私にはいいと思います。編集部 サービス指向でいいかないと固定客はついてこないということですね。一通りご意見が出たところで支部長からお願います。

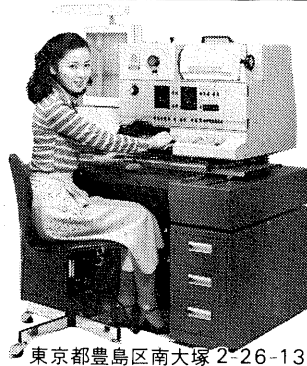
### 今日の課題点は印刷料金 安定成長下はサービス指向

小宮山 お三方のお話を伺って、それのお人柄が反映したご発言は感慨深いもので、全てに一致している点が必要だから設備投資はやるし、自分の企業に見合ったものを、その時々積極的にあるし、また自重する場合もあるということですね、私は今日の課題点の一つは印刷料金と考えます。また、もう一つは中小印刷の企業経営について高度成長経済

## 待望の万能機 LSI制御

# PAVO-JP

●すべての操作をボタンとテンキーで行なえます。その他、「新つめ組み機能」やミスタッチが分かる「エラー警報装置」等、数々の新機能を搭載した。今話題集中の万能機です。



株式会社  
**写研**

東京都豊島区南大塚 2-26-13 (03)942-2211



のもとが適当か、あるいは現在の低成長の時代が適しているのかについて、皆さんと共に研究し合ってみてはどうかと考えています。ここで大手大企業と中小企業を大ざっぱに体質分類をすれば、大企業は生産指向でありますから高成長期にはほとんどと業積もあがるのですが、現在のような低成長の時代には中小企業の特質であるサービス指向、あるいは商業指向、企画指向とも言いますか、こういう時代こそ中小企業が特徴ある活動ができるのではないのでしょうか、そのためには、組合のよびかけにもどんどん参画して、お互い意見を發表し合って補足し、補完し合っていくことが大切だと考えます。そして経営の理念を模索することにより明日の展望が拓けてくると思うのです。白橋さんは今年は反省の年だと仰ったが、明日の展望とは反省の積み重ねのなかから生れてくるものと思います。

先程からお話のしている設備投資については、私どもが昭和二四年にスタートしてから振り返ってみますと、これは偶然かも知れませんが、経営の近代化、合理化をやったとか、あるいは伸展したという場合は、どちらかといいますと、今日までの循環的な不況のなかでおこなわれました。このことは印刷業界一般に当てはまるのではないのでしょうか、従いまして一般産業界と印刷業界を見比べてみる必要があるのではないのでしょうか。印刷業は幸か不幸か多品種少量の受注産業という特質が、一般産業とは異質な考え方で経済に対処していくことと、時代の受けとめ方を確りとして、各事業所がそれに見合った経営ができるよう日常的に努力をすることですね、それには組合行事に積極的に出て、人の話を先ず聞く、そうして考えることです。しかし、そのことがどんなメリットになるのかと目先の利益を考えると、極端な言い方をすれば、それだけの時間の通し稼ぎがなくなると思われますと、組合に加入している意義が失われてしまいますね、そういう意味からも、これからの経営者は積極的に交流を深めて、自分自身で学習をし、物事を判断できる考え方を身につけることが大切だと考えます。これこそが、これからの経営者の理想だと思います。その点では京橋支部の組合員の皆さんの大多数はそういう指向で今後とも共にいけることです、しかも非常に手固く確実な経営をされている、その体質が受注にも、あるいは設備関係に自然に備わっているように出てくるといふ感じがしますね。

る、その体質が受注にも、あるいは設備関係に自然に備わっているように出てくるといふ感じがしますね。

編集部 それでは情報交換とか、その吸収、また選択とかをきちっとやっていくべきだと仰っております。その点についてご意見を願います。

### 正しい判断は経営の理想 組合を自己啓発の場に

小 薬 私は二代目ですから、ある程度基礎ができ上っているものを先代から引継いだのですから生意気なことは言えないのですが、先ず何んと言っても技術革新に沿っていかれるかと、もう一つは組合行政への対応の仕方ですね。これは戦中、戦後の用紙の配給制度であったから組合に入ったのだというような、これも大切なことだったのでしたが、その考え方の流れが現在もあって、組合とは本来何かを与えてくれるものと認識されているように思えます。組合に参加してそのなかから自らが掴みとるのだという意識が不足しているような気がしますね。日本産業界の経営者組合は大体そのような傾向のようですね。しかし、六〇才代の人の受とめ方と五〇才代、また同じように年令が下がっていくに従いまして理解の仕方が違ってきています。私は地区の会合などで、労働組合をみると、彼等が自分達の要求でストライキまでやるのを考えているかと話をす

ることがあるのです。労働者は団結して交渉やストライキにのぞまない自分達の生活の向上がないと考えるからですよと、だから私達も印刷組合の理解の仕方や、組合員としての連帯感についても彼等以上にたかめる必要があると思えますね。組合行政のなかで、いま提唱されている組合員の増強についても加入のしおりを配ってハガキが返信されてくればというような運動では、いけないのではないのでしょうか、この運動を進めるなかで組合員から加入をすすめるメリットは何か、何か目に見えたものを与えなければ加入運動ができないというふうではないかと思うのですが、この点についても組合指導者が分析をして一九七九年から八〇年代はもうそんな時代じゃないんだという認識をたかめる方向での指導がないと、そこから発生する料金問題一つにしても地区の会合などでも組合で料金を決めてほしいという声が強くなるのですが、要は自分で原価計算をして料金を決定するのではなく、与えてもらいたいと言うのですが、しかし最近の経営者層は問題のとらえ方や対応の仕方が近代的になってきていると思います。

### 若い世代に魅力ある提案 メリットは組合活動の参画

編集部 組合加入のメリットには目に見えないものと、目に見えないものとの転換期であり、受けとめる方も質的に変



てきている、この点で組合活動の指導と把握の仕方、その対応の仕方も変えていかなければならない時期にきていることですね。

**白橋** どう組合に参加するのか、参加したら、どのように自分にハネ返させるかは、自分の問題だと思います。組合とは自分を啓蒙し、形成する一つのきつ掛けの場ですから、いろいろの情報を自分の会社はどう生かすが問題だと思うのですが。

**小宮山** 私は若い世代の方が聞いてくれる魅力のあることを勇気をもって提案することだと思います。私どもは過去を振り返り経験が中心になるのですが、参考にして頂きたいですね。私は二〇才代から組合の幹事などのお使い役で参画し、先輩の皆さんのご指導を頂いたことが現在も非常にプラスになっています。若い方が進んで地区幹事なり地区長として積極的に出て頂くことを望みますね。そして本部の各種委員として活動されることが大切だと考えます。都内二三支部から経験豊かな方々が出ておられるのでお話を聞くだけでも参考になることが多いと思います。特にいまは安定成長計画という目に見えないメリットを求めて自助努力をすることは大変だと思います。それだけに先輩方の話を伺うように務めて頂きたいのです。そんなところにメリットが生れてくると思うんです。

**白橋** 経験には叶いませんからね。

経験談を聞くべきです。

**小葉** 私も二〇才代から父の代理で組合に出て、皆さんからいろいろと教えて頂きました。組合の総会やその他の会合に社長が出られないことがありましたら、是非とも若い後継者の方々を出してもらいたいですね。

**編集部** 入船、湊の両地区では地区幹事は全部二世の方がやっておられますね。それに地区だけの活動でなくて本部の役割を担っていただくという一層伸び方が違ってくるのではないのでしょうか。

**小葉** 現在私の地区の会合の平均年齢は三五才位です。しかも殆んどの人が(九九%)大学を出ているのです。従いまして話が早いですね、たまには辛辣な問題提起もされますが、支部長さん今年



は各地区でも若い方々に組合活動に積極的に参加されるようお願いいたします。

**小宮山** 結構ですね。

### 七九年を足掛りに 躍進の八〇年代へ

**鎮目** いまの話題に関連して若い世代の企業活動についても皆さんのご意見を伺いたいのですが、私のところでは後継者が現在全面的に営業を担当しておりますが、数年まえまでは私も会社のメインに当る得意先に行っておりまして、「親父が出る仕事やりにくい」と申します。その一つに得意先の担当の方が若くなっている、私が行っておった頃の係長や課長が部長や役員になっておられ、担当者を飛び越えて頭ごしに仕事が進んでしまい、「営業の私が出来ない」といったものが親父さんに頼むと出来てしまう、しかもそれが先方の係のミスでもその係の顔をたてて、急いで印刷をし、費用をかけて納めたものなのに料金をもらわれないのは不合理だということですが、度々あるのです。掛った費用は先方からもらうのは当然だとして、得意先の担当者や若い二人の間では話がついてしまうようですね。それ以来営業は任せてあるのですが、現在もくい違いが時々あるのですが割り切れないものがあり疑問があるのです。

**白橋** 私は社長の立場での得意先の訪問をお進めします。しかし営業担当者

日本を代表するインキ

TOYO KING

ULTRA70



東洋インキ

和・欧文 活字

材料 / テープ・メタルベース 他

インキ / 阪田 大日本 東京 東洋 各

和・欧文 各パンフレットあります



株式会社 京橋岩田母型

551 - 1380 - 2830 ・ (店頭)2827

の邪魔をしてはいけなと思います。社長が営業の頭越しに仕事を引き受けないで社内です。得意先とはあらゆる面で二段階でも三段階でも繋りをもつ方が良くと思います。

**小 葉** 私どものことが参考になるか解りませんが、私の先代は非常に短気な人でしたが、案外にお客様には喜ばれていて、現在の八〇%の固定客をもっていました。従いまして営業の新規開拓の二〇%には五名の営業部員が当てていました。いま鎮目さんが仰ったケースと逆の場合もありました。先代は固定客の営業を私にやらせていましたが、若いときからのお客さんでもあり、六〇才を過ぎ六五才位まで、私にお前は素人だからということ、じっとしていられないで何社かの得意先に顔を出していました。余り細いことには触れないでほしいと私の方から釘をさすようなことがありました。細いことは私がやるからと二人でペアーを組んで段々と後退してもらいました。

**鎮 目** マイナスになる点があるのでないですか。

**白 橋** 表敬訪問でいいじゃないですか、マイナスになっていいんですよ、社長が行って一〇〇やっていたものを若い人が一〇〇できたなら社長と同じじゃないですか、それは無理ですね、それは時間を掛けて一〇〇に戻すように

教育して一〇〇なり一二〇に伸びるのだと思います。

**小 葉** 私は後継者を組合活動にも企業活動の表面にも出してほしいのです。社長にしてみれば心配であるが、反面早く一人前の良い後継者に成長してくれることの方が望ましい訳ですから、そして社長は少し高いところからみていてほしいですね。

**鎮 目** 最近「親父さんこななくていいよ、息子の方が余程話が早い」と冗談のように言われるのですよ。彼等に言わせるのと企業に打撃を与えるような失敗でない限り、自由にさせて呉れた方が勉強になると割り切っているのです。

**白 橋** 守りはどうしても消極的になります。伸ばすには攻めなければ、若いので失敗もありますが、それに対して責任なりリスクは、充分に意識のなかに持っているのですから、伸びるように導びいてやることだと思います。



**鎮 目** 私も或る程度の失敗を重ねな

がらも、やはり先代から受継いだものもなくさない守りでしたから、伸びるには一つにかかって後継者の育成が大切ですね。

**白 橋** 後継者についてですが、近頃は世襲ではなくその企業を支えていく能力のある人が後継者としてやっていく世の中になってきていますね。

**小 葉** 私どもでは定期刊行物の年間契約が多いのですが、先代が戦前から戦後に開拓したところで、永い得意先は四〇数年のお付合もあるのですから、労組との賃上げ要求の時期を同じくして、得意先との料金改訂問題があるのですが、その両交渉を先代がやっていたときは大変でした。飯も不味いと言うことで不機嫌でしたが、私が引き受けてからは、もつとドライになりました。積極的にこちらから数字を提示することで、先方からも提示してもらい、話し合いをして比較的にスムーズに解決しています。しかし年によって上げ幅は変わってきていますが、五年程このパターンを続けています。従業員の賃上げや賞与の交渉にしても二位の話し合いで殆んど解決しています。

**編集部** 予定された時間が経過いたしましたので、初めは皆さんのお話が解りなかつたので、もう一度ひと言で今年の抱負をお願いします。

**鎮 目** 今年は未年ですから羊とは紙を好むと言われていますから、印刷の紙をどしどし消費して加えてお札の紙もう

んと好むように頑張りたいと思います。

**小 葉** 私も鎮目さんより一廻り下の年男ですので、今年は私にとりまして最良の年にしたいと考えております。組合活動と会社経営を積極的に進めます。活版が主体ですので活版の良さを再認識してもらおう方向に力を入れてみたいと思っています。同時に年令的にも一番活躍できる年ではないかと張り切って頑張るつもりです。

**白 橋** 今年は積極的に設備の増強をしたいと予定しています。しかもそれは格好な年ではなからうかと思っっています。不況だからと決して心配はないので、反省を積み重ねて出発点とします。

**小宮山** 今年はつちのと・ひつじ(己未)になるのですが、羊は表面は穏やかな相ですが、皆さまとの対談にも非常に躍動的な何かを秘めた、お年のようで積極的で、安泰的な、かつ合理的なお考えをご披露されて、ご自身のご事業は絶体間違いなしと聞きましてお喜び申し上げます。現在は組合に参画していただける層も薄いので、特に支部事業につきましては過渡期でもありますので、是非共に羊年の皆さんにご協力をお願いします。ご自身の反省と経験を含め、次期経営層に期待し、今年の抱負を語って頂きたい。組合員皆さんの参考になるところが多いと自負している次第です。お忙しいところ有難うございました。



# 創刊をかえりみて

東印工組  
常務理事  
久保田 幸一郎

明けましてお目出とうございます。組合員の皆様方も色々な意味で苦しかった昭和五三年が終って、ホッととして新春をお迎えになっていることと思ひ、ご同慶の至りでございます。

早いもので皆様方のご推薦を蒙り、微力ながら組合本部の手伝いをするようになってから九ヶ月経ちましたが、担当の厚生部門に関する知識を満足いくように知ることが出来ず、われとわが頭の悪さにただあきれている次第でございます。

今後共一層のご指導ご支援のほど特にお願い申しあげます。

新内閣も発足してから一ヶ月経たずして意義ある新春を迎えたのでございませぬ。こんな時に「京橋の印刷」も目出たく創刊一周年を迎えられたのでございませぬが、以来回を逐って内容外観共益々充実されたことは一目瞭然とわかることで勿論寄稿者のご熱心なご協力は忘れてはならぬと思ひますが、ここまで育ててこられた支部長や担当編集委員のご苦心の程が切々として窺うことができます。

表紙は燈台元暗しの例え通り、地元京橋にいても知らなかった歴史的碑や建物

等の写真や説明文を見ると心にほのぼのとした温りを感じさせられます。二頁目からは組合事業の広報周知に、人物や技術の紹介に、各地区の動静に、中でも数回に亘つての組合学校は私達の知らない遠い昔の地元業界の変遷や発達の過程を、またその時々々の欧米の業界状況を知ることができ、時には自分がお話の主人公になったような錯覚にとらわれることさえあります。

「京橋の印刷」創刊については、私を支部長を仰せつかり、任期満了の五ヶ月前に、当時執行部の総意で発案し、地区長会に提案了承を得て編集委員をきめて実行に移したのでございます。初代の編集委員は確か石曾根、武村、菅野、森山(道)の四氏であったように記憶していま

す。無から有を生じるのは大変にむづかしいことで、少し強引過ぎたかも知れませんが、編集委員が暮の忙がしい時にも拘らず作製に鋭意ご努力なされたので予定通りに発刊できたわけでございます。

また資金面で支部役員の皆様には格段

のご協力をいただきましたことを特記しておく次第でございます。そして今では各頁に亘り程よき大きさと特色をもたせた図案で、協賛会社の広告が載せられております。これはご賛助のお思召しもあるうかと思ひますが、文字通り錦上華を添えるものであり、優良取引先ガイドとしていきたいものでございます。

「京橋の印刷」は、満一才になりましたがまだ乳呑子でございます。しかも早、組合員皆様の事業運営上の羅針盤ともなつて、発展していく一指針となつていくことは確かであると思ひます。そして将来これを繕けば京橋支部の歴史が、歩みが明白にわかることとございませぬ。

新春を迎えたとは申せ寒さはこれからが本番でございます。厳しさは益々加わることでございますが、私達業界もこれと同じように益々不況の嵐が吹き荒れてくるものと思わねばなりません。このようなどきこそ組合員の皆様は組合を通して、確かりと手をとり合つて進んで行かねばなりません。そして組合と皆様方、或るいは組合員同志の間に入って連絡の役目をするのも「京橋の印刷」の役目の一翼であらうかと思ひます。どうか今後共綴つておかれ何かのお役に立たせていただきますようお願いし、皆様の限りないご健勝とご隆盛を祈念いたしご挨拶にかせさせていただきます。

親しみをこめたおつきあい

**文化産業信用組合**  
京橋支店

理事 湯 浅 時 夫  
支店長

東京都中央区八丁堀 4-13-1 ☎551-9625(代)104

**トウのビジネス封筒**  
名刺・カード・はがき

営業品目  
事務用和洋論紙  
名刺用紙  
私製はがき  
招待状用紙  
マツ封筒  
ROM封筒  
DM用紙

株式会社 **トウ エニパック**

●本 社 東京都江東区永代 1-2-1 電話 (642) 1141 (代表)  
●配送センター 東京都江東区永代 1-1-7 電話 (643) 3237 (代表)  
●支 店 城南(727)4141 本郷(643)7461 城西(994)5151 浅草(643)7851  
●橋本工場 橋本橋下都賀郡野木町友沼 電話 02805(5)2100 (代表)

# 銃洲雑話



## 白川 晃

鉄砲洲は古い土地柄だが、その顔とも

云える地点は今では稲荷橋の付近であろう。今の橋はバスもトラックも行き交える堅固な鉄橋だが、大正十二年の震災で焼亡する以前は幅員も狭く、橋板も薄い古風で貧弱な木橋であった。大八車がや

つと通れる位で、人通りも疎らであった。震災後の区画整理でも水に接するこの辺りは割合に地形や町並に変化が少かった様だ。懐しい昔の面影の色濃く残って居るのはこの辺りである。ところで此の橋は赤穂四七士引揚の史蹟でもある。

『道筋の儀、通り町筋は御礼日(幕府は朔望を以て礼日とした)の儀に候故差控、御舟藏の後通り、永代橋より鉄砲洲罷出、汐留橋筋、金杉橋より、芝口に出候て、泉岳寺へ参り候』之は引揚の途中、隊列を離れて、吉田忠左衛門、富森助右衛門の両名が、愛宕下の大目付仙石伯耆守へ差出した口上書の一節である。

朔望とは月の一日と二五日のことだ。

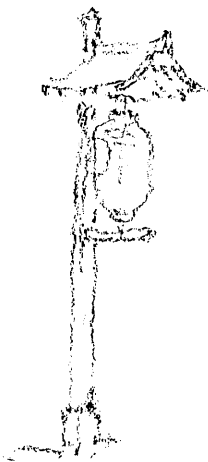
時は元禄一四年一二月一五日の未明である。永代橋から鉄砲洲へ出ると云えば当然、稲荷橋は順路に当る。小さなものでよいかから、橋畔に一碑欲しいものである。

×

鉄砲洲稲荷は明治初年までは稲荷橋南袂、京橋川と箱崎川が合流して大川の河口に注ぐ所の角地にあつたらしい。京橋川は所謂八丁堀である。その後間もなく社地は水辺を離れて稍南の方へ移転した。稲荷橋を渡ると、石の大鳥居が真正面に望まれた。距離は二〇〇米もあつたろうか。この場所が震災の厄に遭つて社殿は焼尽してしまつた。筆者は避難のため便乗した達磨船の上から、火煙に包まれたこの大鳥居の姿を望見した幼い記憶がある。大正一二年九月二日午前

一時頃のことだった。炎に映えて画の様にあかるい大川の水の上からだ。災後、昭和初年に再建されたのが現在の社殿である。境内は昔の社地の西側の一部だと思われるが、昔の広さはこの三倍位はあつた様だ。

『湊稲荷社』高橋の南詰にあり。鎮座の由来詳ならず。この地は廻船入津の湊にして、諸国の商船普くここに運び碇を下して、この社の前にて積む所の品を、悉く問屋へ運送す。この故にや近世吉田家より湊神社の号を贈らるる。当社は南北八丁堀の産土神(うぶすな)なり。』と齊藤月岑の江戸名所図会に誌されて居る。湊神社は鉄砲洲稲荷の旧称である。この辺り大川を背にした旧本湊町の細い町並には江戸時代以来の古い炭問屋、回漕問屋、船具問屋等が賑かに軒を並べて特殊の景趣を保つて居た。炭問屋の暗い炭蔵の通路の果てに明るくゆらめて居る大川の水の光、回漕問屋の広い玄關脇に置かれてある芝居の平知盛を思い出させる様な巨きな碇など。下町の情を愛惜した永井荷風や岩本素白の様な文人は頻々



### カラー製版は

### 能登プロセス株式会社

東京都中央区日本橋蠣殻町1-25-7 ☎(667)5021(代)☎103

この辺りを徘徊した記述をその日記や隨筆に残している。鉄砲洲稻荷の縁日も盛んなものであった。天保九年刊の『東都歳時記』には毎月一日、一五日、二八日と記されて居るが大正から昭和初年にかけては之に一〇日、二〇日が増えて毎月五回の縁日だった。他には余り例のないことだと今でも不思議に思われる。とにかく定休日の数も少く、余暇に乏しかった当時のこのあたりの住人にとっては縁日の夜の多いことは無上の楽しみでもあり慰藉でもあったのだ。

×

明治維新当時、現在の佃大橋の辺りは船松町二丁目と呼ばれた所である。此処に松坂屋という回漕問屋があった。主人は星野長兵衛といつて紀州藩用達を勤める大店であった。

明治元年五月一五日、上野東台の戦いは彰義隊の一方的敗退によって僅か半日で終わったが、以後敗兵の追捕、探索が官軍によって厳しく行われた。戦いの初期に夙く上野を退去された輪王寺宮の行方も同様であった。同月二五日の午さがり松阪屋を訪れた三人の客があった。その風体は病家を往診する町医者の一行と思われた。その中の年若い弟子医者を装って居たのが去一五日以来逃避行を続けて居られた輪王寺宮公現法親王であった。

紀州藩主徳川茂承の奥方は輪王寺宮の妹君に当るので、その由縁から用達を勤

める星野長兵衛を介して、当時品川沖に碇泊中の榎本武揚に乗船の事を請わしめたのである。一切は宮の謀臣、市ヶ谷自証院住職亮栄の謀る処であった。同夜半、長兵衛自ら小舟を操って、宮の一行を羽田沖に碇泊中の幕艦長鯨丸に送りと



どけた。

艦には榎本が既に待受けて居た。榎本は宮の存意を伺った上、この艦で一行を常陸平潟に送り届けた。自らは旗艦開陽丸で館山沖まで送った。平潟からは陸行、会津若松を経て宮の一行が仙台に着

いたのは九月二日であった。以後の宮の波瀾と数寄に満ちた生涯については此処では省略したい。以上は森鷗外の書いた『能久親王事蹟』の中から鉄砲洲に関係のある部分を抽出した訳である。当時の社会情勢を考えると、星野長兵衛の行動は正に果敢な冒険である。松坂屋のあった船松町二丁目は其後居留地開設のため付近一帯の大名旗本の邸共々収公せられ、明石町に編入された。行き場所のない町家には靈巖島の南の角地が替地として与えられた。新舟松町というのがそれである。今でも鉄砲洲稻荷のお旅所があり祭礼の時には家々の軒に祭提灯がさげられる。星野長兵衛も一時はこの一廓に移ったと思われるがその後の事情は未だ知ることを得ない。

×

いかめしい大名屋敷の密集地帯から一変して開化の庶民の街となり、実に種々雑多な職種の人々の生活を支えた鉄砲洲は、震災を境として印刷産業の色を濃くして今日に至った。約一世紀のこの土地の変遷を顧みると、この土地には何か信義と連帯とでもいうものが一種の地霊として遣って居るのではあるまいか。現在では幅広い底辺を保った印刷文化の街として息づいて居るのは偶然ではない様に見える。

カット・福井 一

(桃蓬菜屋印刷所企画室編)

湊地区のページ

## 対話へのかけ橋

1枚の封筒にも  
大きな使命が  
かせられています。



# 山口封筒

本社 〒104 東京都中央区八丁堀2-2-7 電話(551)1151代  
工場 〒132 東京都江戸川区西端江4-21 電話(652)7721代

月島地区幹事さん紹介

室田利一さん



室田印刷代表取締役。職歴/S 19年  
海軍兵学校特別飛行教育隊に入隊。戦  
後、経済安定本部に勤務する、その後  
S 23年印刷業を始め現在に至る。生年  
/ S 2・2。趣味/日本画、乗馬、居  
合術は三段の腕  
前。寸評/安本出  
身の経済通。幹事  
の代表格で地区長  
の良き補佐役。

小池馨さん



安信製版代表取締役。職歴/S 26年  
戦中疎開先の長野県松本商業を卒業し  
安信製版に入社。先代弘氏はS 7年よ  
り創業、S 28・10会社組織変更、S 51  
・10先代の後を継ぎ現在に至る。生年  
/ S 7・1。出身  
/ 東京。趣味/海  
釣。寸評/地区幹  
事二期目、月島中  
堅のホープ。

本橋亨介さん



本橋印刷所社主。創業は古く大正12年  
である。職歴/月島の小・中学校から  
都立江東商業高校を卒業し昭和42年19  
才で家業を継承。生年/S 22・11。出  
身/月島。趣味/アマチュア無線、マ  
イクロコンピュータ、ラジコン、ス  
キー、テニス。寸  
評/地区最年少だ  
が堅実な手腕家。

「阪中太郎」?

尾島賢一郎

九月九日(土)友引・気温三二度

旅行は楽しい、好きな時、好きな量だ  
け、好きな酒を飲む、ということであ  
る。午前一〇時半に新宿を出発してから  
かれこれ一時間半、旅の解放感も手伝っ  
てか皆さん、だいぶ酔って話題に花が咲

いている。

今年世界的な異常気温で、ヨーロッ  
パでは夏に雪が降ったという新聞記事を  
見て我が目を疑ったほどであったが、日  
本もご多分にもれずの炎暑。各地方気象  
台では「開設以来うんぬん」の猛暑ニ  
ュースが新聞を賑わしたものである。おま  
けに悪い時には悪い事が重なるもので  
(この場合多分に政治の欠陥という人為  
的な事が多いが)日本全土的な水不足。  
給水制限は全国二〇数都県にまで及び、  
北九州地方の皆さん、特に福岡に於ては  
一日一六時間断水という最悪の事態をむ  
かえ、この給水処置は昭和五四年春まで  
は続くであろうという、想像を越えた深  
刻さでありました。台風はイヤなもの  
相場は決っておりますが、今年ばかりは

大歓迎。夏から秋にかけて11号より18号  
まで、八本もの台風が日本に接近しまし  
たが、上陸したのはそのなかの一本だけ  
で他は皆コースがはづれて太平洋に抜け  
てしまいました。

旅行の一週間前の九月一日夜。三人の  
子供も寝てしまい、ビールを飲みなが  
らNHKのニュースセンター九時(NC  
9)を見ておりました。いつものように  
ニュースに続き、頭のハゲている福島ア  
ナウンサーの出番のスポーツコーナー。  
プロ野球途中経過では「巨人リード」。  
ご気嫌にホロ酔い気分になっている時、  
突然のショック。九時三五分頃に登  
場する天気予報の可愛い女性アナウンサ  
ーが、いつもの通り今日の天気と明日の  
各地の予報を説明し、更に、今年の夏の

水不足による各地の水情報をテロップで  
流していた時に水の話の一つとして  
「水不足に悩む日光地方では、今日より  
日本ラインの川下りを中止にしました。」  
と放送。

一週間後の「天竜下り」がなければ恐  
らく気にも止めず、「僕のノドも水不  
足、もう一本ビールを持ってこい」と女  
房に言い、「飲み過ぎると身体に悪いの  
でダメですよ」と決まり文句の女房のオ  
ウム返事を聞きながら、ふて腐って狸寝  
入りを決め込む私ですが、この時ばかり  
は大ショック。翌日坂田地区長さんと旅  
行の最終打合わせの為お会いした時、昨  
夜の件を説明しました。「日光地方は情  
報によると中止となりましたが、中部地  
方はどうでしょうか。坂田地区長さん  
は「心配はないよ」との事。念の為に旅  
行会社に電話を入れると「現地からは何  
の連絡も入っていない。ノーニュースは  
グッドニュースなので心配ないのではな  
いか」との事。お天気まかせの水事情に  
多少の不安を感じながら今日の旅行日  
を迎えたのである。二時間後の午後二時  
に辰野駅に着き、切符の手配の都合で、こ  
まがね二号に乗りした我々はこの辰野駅  
で前の車輛のアルプス二号に乗り換え  
た。どんな時でもハシゴとは疲れるもの  
である。午後三時二一分(新宿を出て約  
五時間)電車は定刻通りに市田駅に着い  
た。五分も歩くと天竜川の市田港であ  
る。ご承知の通り天竜川は諏訪湖を源泉



とする中部地方の動脈河川であり、小渋ダム、佐久間ダム等多少のダムを有する中部経済圏の重要なエネルギー源としてその存在は非常に大きなものである。私の心配とは反対に天竜川は幾分流量が落ちているとはいえ、堂々たる姿を我々の目の前に見せてくれた。

「天竜舟下り」のスタートはこの市田港を起点として天竜峡までの二〇キロメートルで、二四人乗りの船で一時間半の時間を掛けて下るものである。途中には飯田弁天港(市田港より約七キロ、時速一四キロ、秒速三九メートルで約三〇分)、と時又港(弁天港より約五キロ、時速一〇キロ、秒速二、七メートルで約三〇分)に立ち寄り、終着の天竜峡(時又港より約八キロ、時速一六キロ、秒速

四、九メートルで約三〇分)えとたどりのつのである。スピード感を表わすために数字で船の速度を紹介した通り比較的に流れが速く、全行程二〇キロ平均は時速一三・三キロ、秒速三、七メートル、大体に於て我々人間の歩く早さの約四・四倍ということになる。別な天竜舟下りコースは、我々の終着港天竜峡を起点として更に川を下るコースであるが、このコースは川下にある佐久間ダムの水量調節の関係もあると思われるが、水の流れを感じない程ゆったりとした流れである。

市田港を起点とした前のコースは男性的で力強く、後のコースは女性的な優しさを感じるもので、その対照的な動と静のコントラストが実に鮮やかに表現される。

ている。舟に乗りながら、もし日本ラインと同じくこの「天竜舟下り」も水量減による中止となったら「舟下り」どころか、地域産業に与える影響は計り知れないものがあり、それを思うと勿論地理的諸条件や人為的な、更にはラッキーな面があったにせよ普段と変わらぬに流れる水を見るにつけ、天竜川は一種の憧れに似た力強さを感じるのである。阪東とは関東地方のことを言い、太郎とは雄大なものが、力強いものと言う意味のある言葉であるが、関東・関西に次ぐ日本第三の勢力の中部地方の太郎さんはさしづめ天竜川を指すのであろう。

中部地方は過去の歴史を見ても、信長・秀吉・家康の出生地があり、今日現在でも我が印刷業界全体の一年間の総売

上げに匹敵する売上高を記録し、利益率も日本一というT自動車工業等が存在する重要な地域である。天竜川はそういう意味からも別名「阪中太郎」であり、いつまでも変わらぬ発展を期待したいものである。スカットした舟下りの後の酒はまた格段の味で、夜の宴会では皆さん久し振りに大ハッスル。竜峡亭ホテルの夜景も素晴らしい。

九月一日(日)先負・気温三〇度メインコースを終わった気分とでも言うのか、天竜峡より本長篠に行き、鳳来寺では雲竜荘で山菜料理を食べ、長篠城趾等見物後、豊橋経由「こだま二六八号」で東京駅に午後七時一六分無事到着。帰路豊橋で仕入れた「うなぎ弁当」を食べ、皆さん元気に家路に急がれました。

築地地区幹事さん紹介

加藤

秀さん



した功績は大きい、地区の信頼ある温厚な長老で、なくてはならぬ顧問である。

小森 常雄さん



は学校の後輩で親しい間柄。地区員は今後も大きな期待をもっている信頼できる人。

余 吾 光 司さん



軍隊生活七年、鍛え上げた経験、技術を基礎に業務の発展に効果を挙げている。

東京開拓社社長、職歴/先代の後を継ぎ今年で四四年になる。生年/M37・1・15。出身/茨城・那珂湊市。趣味/旅行・釣。

小森印刷機代表取締役。職歴/S30年小森印刷開業、S33年株式会社組織変更。生年/T14・12・7。出身/京橋八重洲。趣味/釣、スポーツ鑑賞。

築地印刷所代表。職歴/S21年築地精版印刷機に入社、S29年築地印刷所を創設、出版、事務用品を主とし現在に至る。生年/T8。出身/新潟・佐渡

越後の困特有の努力

# 支部の動き

山、篠倉各副支部長出席。新年臨時  
総会等について打合せする。

## 組合脱退

12月1日 支部臨時部長・地区長会於  
芝、清崎。  
12月6日 支部長会、於・日本印刷会館  
小宮山支部長出席。

12月27日 湊地区、東興美術印刷、伊東  
子篤氏。

12月13日 部長会・地区長会於京橋支部  
会議室、引き続き編集会議開催。

## 「一月行事予定」

12月15日 城西・新宿支部主催「78新宿  
プリンテングフェア」於小田急百貨  
店、小宮山支部長出席、見学する。

1月10日 新川地区新年会、於ダイヤビ  
ル6時。  
1月17日 八丁堀地区新年会、於京橋会  
館6時。

12月19日 常任役員・支部長会、於上野  
東天紅。小宮山支部長出席。

1月17日 京橋電気安全協会新年会、於  
築地スエヒロ5時30分。

12月21日 月島地区月例会於ヤマニ食堂  
小宮山支部長出席。

1月18日 湊地区新年会、於治作5時30  
分。

12月22日 支部総務会開催、於京橋支部  
会議室。小宮山支部長、石曾根、小

1月18日 入船地区新年会、於福神楼5  
時。

## 「京橋の印刷」 広告募集

当京橋支部では、業界の推移、技術や営業の情報交換など組合員の結束を計る  
ために、支部報「京橋の印刷」を刊行しています。就きましては時節柄誠に恐  
縮ですが、協賛広告にご応募くださいますようお願い致します。

### 協賛広告掲載料金

一段	天地 五〇耗	半年 (六回)	金六万円也
	左右一四五耗	一ケ年 (十二回)	金十万円也
半段	天地 五〇耗	半年 (六回)	金三万円也
	左右 七〇耗	一ケ年 (十二回)	金五万円也

図案・版下は実費頂戴いたします。

東京都印刷工業組合京橋支部

## 編集後記

1月19日 工団連新年会、於築地スエヒロ  
ロ5時30分。  
1月19日 中央厚生事業協組新年会、於  
躍金楼5時。  
1月24日 部長会、地区長会、編集会議  
於京橋支部。  
1月27日 支部新年臨時総会、於熱海、  
静観荘4時開会。

▼明けましてお目出度うございます。本  
年は編集委員一同、想を新たにして誌面  
の充実を念願しております。一層のご支  
援とご関心をお願いし支部独自の臭いを  
発散していきたいと念じております。  
▼暮になって大きなニュースが舞込ん  
だ。

### 1 米中国交の樹立

2 オベック原油年平均10%値上げ  
前者は長期的観点から、後者は直撃的観  
点から、それぞれ日本経済に及ぼす影響  
は大きい。

▼これら大ニュースを見落すことはまづ  
ないが、多忙にまぎれて見落すニュース  
の中に、間接的にせよ影響を受けたリ、  
参考にすべき事項が少くない。

「京橋の印」にこれらのニュースの抜  
萃事項を掲載することも考えられるが、  
速報性に乏しいだけにどれだけお役に立  
つか戸迷いを感ずるが、記録としての価  
値はあり、皆さんのご意見を伺いたいも

のである。  
▼昨年9月に発行された製本白書による  
と、製本工業組合加入率が78%と、八割  
近い組織率になっている。即ち企業数  
三、〇〇一に対し二、三三八企業が組合  
員であるという。私共印刷工業組合が47  
%と五割を割っている現況を思うと、兄  
弟組合の結束のよさは他山の石とするに  
足る。ましてや現在組織強化を実施事業  
の大黒柱としている時期だけに、一層そ  
の感が深い。

▼新年は何かにつけて行事の多いこと  
と思います。会社・得意先・関連業界そし  
て地区・町内会等の新年会でご多端のご  
とでしょう。その中でも一月二七日の支  
部臨時総会は必ずご予定に入れて頂きた  
い一つであります。もうお申込済みとは  
思いますが、お屠蘇気分が抜けない方々  
には念の為。

▼そんな時期ではありませんが、国と同様  
支部でも予算の編成期に当たります。限ら  
れた収入源の中での事業には、自ら枠内  
事業の域を出難いと思いますが、専従書  
記や各種委員会出向等の経費については  
この辺で一度検討してみることも必要か  
と存じます。三月上旬迄には組合員皆様  
のご理解とご支援を頂いて、予算の骨格  
を作りたいと存じます。

▼湊地区特集号にふさわしい記事を頂い  
た。筆者は湊地区に生まれ育った長老の  
方で、随筆集も上梓され、「白川 晃」  
はペンネームである。